

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－
ワークショップ実施計画書

制作団体名	有限会社 遊玄社
公演団体名	演劇集団 遊玄社

内容
1)ワークショップ項目 ① 参加者各々が、自分が呼んで欲しい名前(愛称等)の札を胸に付けてもらい、指導者を含めたお互いの認識を図る。 ② お手玉を使っての準備運動と基礎的な表現練習。 ③ バンダナ等の布地を工夫して動物に扮し、その形態の表現。 ④ 劇中で使われる体技(肩乗せ)の手ほどき。 ⑤ 持参する民族楽器を使ってのアフリカのリズムを体験。 ⑥ それを発展させ劇中で共演する曲の演奏、歌唱指導。 ④、⑤、⑥を組み合わせた劇的表現の実践。

タイムスケジュール (標準)
学校到着 開始約1時間前
着替え・準備時間 45分
ワークショップ所要時間 1時間30分～1時間50分
後片付け・着替え 40分
公演詳細打合せ 30分 学校到着から退校まで約3時間40分～4時間

派遣者数
合計 (6名) 指導者 (6名) スタッフ (0名)

学校における事前指導
特に必要ありません。 参加者はそれぞれ大きめのバンダナを1枚用意してください。持っていない場合は劇団で相当枚数持参いたしますので、新たに購入する必要はありません。

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	有限会社 遊玄社
公演団体名	演劇集団 遊玄社

演目
音楽劇・イソップランドの動物たち 原作/イソップ寓話 構成・演出/関矢幸雄 音楽・演奏指導/テンバ・タナ 美術/中地智 照明/佐久間巨照 衣装/本田朋子 演出補/花輪充 舞台監督/赤羽弘行 制作/田辺慶一

派遣者数
合計（11名） 出演者（9名） 赤羽弘行、桑垣紀彦、平山盛一、間辺稔、馬渡千春、安井希久子、 矢田秀明、柳井萬治郎、わたなべひろみ スタッフ（2名） 西野雅章、田辺俊子

タイムスケジュール（標準）
9:00 9:15 10 11:30 12:15 13:00 13:15 14:40 16:50 到着 ← 搬入準備 →←休憩→←リハ-サル→開場← 上演 →← 撤収・搬出 →退出

実施校への協力依頼人員
可能であれば5～6名(役割：搬入・搬出の手伝い。作業時間30分位)

演目解説

この作品は、数多あるイソップ寓話の中でも比較的著名な八つの物語を選び構成したオムニバス・ミュージカル・コメディです。劇中に舞台と観客席とのやりとりや、演劇の原点ともいえる『ごっこ遊び』を取り入れ、もっともらしい教訓話をユニークな解釈で舞台化しています。新型コロナウイルスの影響で精神的な疲労やストレスを抱えている子どもたちに屈託ない笑いが届けられたらと願っています。

また、10名の子どもたちには実際に舞台上がってもらい、俳優とともに表現の楽しさと、本物のアフリカ民族楽器の演奏を体験してもらいます。

出演者は南部アフリカの民族衣装にヒントを得た貫頭衣状のシンプルな衣装とバンダナを工夫をこらして変化させ、物語に登場するさまざまな動物を演じます。

音楽は南アフリカ出身で、カナダ・バンクーバー在住の民族音楽家テンバ・タナ(Themba Tana)氏が担当し、ジンバブエの楽器店で注文製作したマリンバ・フィンガーピアノをはじめ、すべてアフリカから取り寄せた本物の民族楽器を使い、出演者がすべて生音で歌い、演奏します。劇中でスピーカーから出る音は一切ありません。短いものやリリーズ(繰り返し曲)を含め30曲を超えるミュージカル・ナンバーのすべてが、南アフリカ、ジンバブエ、ナミビア、モザンビークなどの南部アフリカ諸国で歌い継がれてきた伝統楽曲です。

八つの物語と舞台体験の内容は以下の通りです。

- 1.ライオンとネズミ
- 2.キツネとカラス
- 3.犬とオンドリとキツネ
- 4.カニのおやこ
- 5.アリとキリギリス
- 6.オオカミと羊番の少年
- 7.ウサギとカメ
- 8.舞台で遊ぼう
 - ①俳優が演じる動物の名前当て。
 - ②観客が自分の好きな動物に扮し、俳優の扮する動物と泣き声の大ききで対決。
 - ③俳優の扮するワニが棲む河(大きな布で作る)を観客が捕まらないように向う岸に渡る。
 - ④その場面を別の観客が民族楽器を演奏して応援する。
- 9.王様を欲しがったカエルたち

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

参加方法：『ウサギとカメ』では競争中に両者が客席に下り、観客がその模様を応援するという、舞台と客席が一体化した演出方法を取り入れています。

また、『舞台で遊ぼう』では前述の通り主体は観客である子どもたちです。舞台上がる10名の生徒は、劇に触発され表現欲求にかられた者たちの中から、その場で俳優たちが選びます。

公演に参加させるための工夫：この作品は企画の段階から観客参加を大きなテーマとして考えていました。その結果、上述の『舞台で遊ぼう』という通常の演劇では稀な観客の参加場面を最初から組み込んでいます。

さらに、ホール公演仕様の装置を体育館のフロアに建て込むことで、舞台面と観客席が同じ平面となり、観客にはより親近感が増すようになります。それがために観難くなるのではないかという点は、段差のついた観客席を体育館に持ち込み、設営することにより解決を図っています。

児童生徒とのふれあい

舞台準備及び撤収時の見学は可能です。ただし、照明機材の設営・撤収などの若干の危険を伴う作業もありますので、見学希望の場合は前もってお知らせ下さい。

公演後の交流会は時間に余裕があれば是非実施したいと考えています。作品への直接の感想や質問はもちろん、楽器に触れてみたいというような要望には出来る限り応えて行きたいと思えます。